

1 次の行列式を求めなさい。各【4点】

$$(1) \begin{vmatrix} 1 & 3 & 1 \\ 1 & 2 & -1 \\ 2 & -1 & 2 \end{vmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} 2 & 5 & 0 \\ 1 & 2 & -1 \\ 4 & 3 & 0 \end{vmatrix} = -(-1) \begin{vmatrix} 2 & 5 \\ 4 & 3 \end{vmatrix} = -14.$$

$$(2) \begin{vmatrix} -1 & 3 & 1 & -3 \\ 2 & 5 & -1 & 3 \\ 1 & 0 & 1 & 3 \\ 2 & -1 & 4 & -1 \end{vmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} -2 & 3 & 0 & -6 \\ 3 & 5 & 0 & 6 \\ 1 & 0 & 1 & 3 \\ -2 & -1 & 0 & -13 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} -2 & 3 & -6 \\ 3 & 5 & 6 \\ -2 & -1 & -13 \end{vmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} -2 & 3 & -6 \\ 1 & 8 & 0 \\ 0 & -4 & -7 \end{vmatrix} = 112 + 24 - (-21) = 157.$$

2  $A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 2 & 0 & 1 \end{pmatrix}$  の逆行列を求めなさい。ただし,  $A$

の余因子行列が  $\tilde{A} = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 1 & -3 & 2 \\ -2 & 2 & -2 \end{pmatrix}$  であることを用いてもよい。

$|A| = -2$  なので, 【4点】

$$A^{-1} = \frac{1}{|A|} \tilde{A} = \begin{pmatrix} -\frac{1}{2} & \frac{1}{2} & 0 \\ -\frac{1}{2} & \frac{3}{2} & -1 \\ 1 & -1 & 1 \end{pmatrix}. \quad \text{【4点】}$$

3 平面上の点  $P$  の座標を  $(-3, 2)$  とする。以下の間に答えなさい。

(1) 次の各空欄に当てはまる適切な数, 式, または言葉を書きなさい。各【4点】

点  $P$  を  $x$  軸に関して対称移動した点の座標は  $(-3, -2)$  で, 点  $P$  を  $y$  軸に関して対称移動した点の座標は  $(3, 2)$  である。また, 座標が  $(3, -2)$  の点を原点に関して対称移動した点は  $P$  である。

(2) 点  $P$  を, 原点を中心に時計の針と反対周りに  $45^\circ$  回転させた点の座標を求めなさい。

$45^\circ$  回転変換の行列は

$$\begin{pmatrix} \cos 45^\circ & -\sin 45^\circ \\ \sin 45^\circ & \cos 45^\circ \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \quad \text{【4点】}$$

である。よって

$$\begin{pmatrix} \cos 45^\circ & -\sin 45^\circ \\ \sin 45^\circ & \cos 45^\circ \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$= \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} -5 \\ -1 \end{pmatrix}. \quad \text{【4点】}$$

(3) 行列  $A = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$  が表す 1 次変換を  $f$  とする。 $f$  による点  $Q$  の像が点  $P$  のとき, 点  $Q$  の座標を求めなさい。

点  $Q$  の座標を  $(X, Y)$  とおくと, 仮定から

$$\begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix} \quad \text{【4点】}$$

が成り立つ。よって,

$$\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$= \frac{1}{2 - 2 \times (-3)} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ -2 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

$$= \frac{1}{8} \begin{pmatrix} 3 \\ 10 \end{pmatrix}.$$

よって,  $Q$  の座標は  $(\frac{3}{8}, \frac{5}{4})$ . 【4点】

4  $A = \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 7 & -1 \end{pmatrix}$  について次の間に答えなさい。

(1)  $A$  の固有値と固有ベクトルを求めなさい。

$$|A - \lambda E| = \begin{vmatrix} 5 - \lambda & 1 \\ 7 & -1 - \lambda \end{vmatrix} \quad \text{【4点】}$$

$$= \lambda^2 - 4\lambda - 12 = (\lambda + 2)(\lambda - 6)$$

よって、 $A$  の固有値は -2 と 6 である。 【4点】

$\lambda = -2$  のとき、

$$A - (-2)E = \begin{pmatrix} 7 & 1 \\ 7 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 7 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

よって、固有値  $-2$  に対する固有ベクトルは  $k \begin{pmatrix} 1 \\ -7 \end{pmatrix}$ 。

$\lambda = 6$  のとき、

$$A - 6E = \begin{pmatrix} -1 & 1 \\ 7 & -7 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

よって、固有値  $6$  に対する固有ベクトルは  $k \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ 。

(ただし、 $k$  は  $0$  でない任意の実数)。 【各4点】

(2) 1次変換  $f$  によって直線  $l$  上の点が  $l$  上の点に移るとき、「 $f$  により  $l$  は不変である」という。

行列  $A$  が定める1次変換  $f$  により不変なすべての直線の方程式を求めなさい。

不変な直線の方程式を  $y = ax + b$  とおく。この直線上の点は  $(t, at + b)$  と書けるので、この点を  $f$  で移すと

$$\begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 7 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} t \\ at + b \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} (a+5)t + b \\ -(a-7)t - b \end{pmatrix}$$

となる。これが再び、直線  $y = ax + b$  上の点となるので、 $-(a-7)t - b = a\{(a+5)t + b\} + b$  が任意の  $t$  に対して成り立つ。この式を整理すると

$$(a^2 + 6a - 7)t + (ab + 2b) = 0$$

となり、 $a, b$  は  $a^2 + 6a - 7 = 0$  かつ  $(a+2)b = 0$  を満たす。よって、 $a = -7, 1, b = 0$  となるので、不変な直線は  $y = x$  と  $y = -7x$  である。一方、 $y$  軸に平行な直線 ( $x = k$ ) で、 $f$  で不変なものはないことが示される (省略)。 【各4点】

(3) 1次変換  $f$  に対し、 $f(P) = P$  を満たす点を「 $f$  の不動点」という。

行列  $A$  が定める1次変換  $f$  の不動点をすべて求めなさい。

不変な点の位置ベクトルを  $p$  とすると、 $Ap = p$  より、 $p \neq 0$  ならば、 $p$  は  $A$  の固有値  $1$  の固有ベクトルである。しかし、 $A$  は固有値  $1$  を持たないので、不変な点は原点のみである。 【4点】

5  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$  について次の間に答えなさい。

(1)  $A$  の固有値を求めなさい。

$$|A - \lambda E| = \begin{vmatrix} 1 - \lambda & 2 \\ 2 & -2 - \lambda \end{vmatrix} \quad \text{【4点】}$$

$$= \lambda^2 + \lambda - 6$$

$$= (\lambda - 2)(\lambda + 3)$$

よって、 $A$  の固有値は -3 と 2。 【4点】

(2)  ${}^tPAP$  が対角行列となるような直交行列  $P$  を求めなさい。

$\lambda = -3$  のとき、

$$A - (-3)E = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix},$$

$\lambda = 2$  のとき、

$$A - 2E = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 2 & -4 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

であるから、各固有値に対する大きさ  $1$  の固有ベクトルとしてそれぞれ  $\frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}, \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$  を選び 【各4点】、

$P = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$  とおけば、 ${}^tPAP = \begin{pmatrix} -3 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}$  と対角化できる。 【4点】

(3) (1)(2) の結果を利用すると、2次形式

$$F = x^2 + 4xy - 2y^2$$

は  $F = \alpha X^2 + \beta Y^2$  の形にできる。このときの定数  $\alpha, \beta$ 、および  $x, y$  と  $X, Y$  の関係式を答えなさい。

(2) の結果から、

$$F = \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} P \begin{pmatrix} -3 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} {}^tP \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}. \quad \text{【4点】}$$

よって、

$$\begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = {}^tP \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

とおけば、 $F = -3X^2 + 2Y^2$  と標準化される。 【4点】

**6** 次の3つの条件

(i) 行列式  $|A|$  の値は  $-2$  である.

(ii) ベクトル  $\begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$  は,  $A$  の固有ベクトルである.

(iii) 直線  $y = 2x$  上の点は  $f$  の不動点である.

をすべて満たす2次正方行列  $A$  を求めなさい. ただし,  $f$  は行列  $A$  が定める1次変換とする.

条件 (iii) より, ベクトル  $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$  は  $A$  の固有値  $1$  の固有ベクトルであることがわかる. つまり,

$$A \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$$

が成り立つ. また, (ii) より,

$$A \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} = \lambda \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$$

を満たす  $\lambda$  が存在する. 以上のことから,

$$A \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & \lambda \end{pmatrix}$$

が成り立つ. よって,

$$\begin{aligned} A &= \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & \lambda \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}^{-1} \\ &= -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & \lambda \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -3 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \\ &= -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 1 & 3\lambda \\ 2 & \lambda \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -3 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \\ &= -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 1-6\lambda & -3+3\lambda \\ 2-2\lambda & -6+\lambda \end{pmatrix} \end{aligned}$$

と書ける. 条件 (i) より,

$$\begin{aligned} -2 = |A| &= \frac{1}{25} \{(1-6\lambda)(-6+\lambda) - (-3+3\lambda)(2-2\lambda)\} \\ &= \frac{1}{25} \{-6\lambda^2 + 37\lambda - 6 + 6(\lambda-1)^2\} \\ &= \frac{1}{25} \{-6\lambda^2 + 37\lambda - 6 + 6(\lambda^2 - 2\lambda + 1)\} \\ &= \frac{25}{25} \lambda = \lambda. \end{aligned}$$

$$\therefore \lambda = -2.$$

$$\text{よって, } A = -\frac{1}{5} \begin{pmatrix} 13 & -9 \\ 6 & -8 \end{pmatrix}.$$

**【15点 (部分点なし)】**

• **1**~**5** の点数は 85 点を上限とする.

• **6** については, 基本的には部分点はないが, **1**~**6** の点数との合計が 85 点を超えない範囲で部分点を加点することがある.